

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立芦間高等学校
取り組む課題	授業改善への支援（生徒の学力の充実）
評価指標	1 授業アンケートと学校教育自己診断における授業理解度の向上 2 外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上
計画名	生徒が活用する ICT で学力向上・授業改善 ～自分の色彩（いろ）で輝き、響きあう学びプロジェクト～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	1 「確かな学力」の育成と教員の授業力向上 (1) 「主体的・対話的な授業を通して、生徒の論理的思考力を伸ばす授業」「生徒が主体性を持って思考・判断する授業」をめざした授業実践に取り組む。 イ 学校経営推進費事業計画（令和2年度支援校）「生徒が活用する ICT で学力向上・授業改善」～自分の色彩で輝き、響きあうプロジェクト～【プロジェクト等 ¥3,823,600】に基づき ICT の活用に取組み、生徒の知識の定着を図るとともに、課題意識を持ち生徒自ら解決する姿勢を育てる。 ※ 双方向型の授業実践と校内研修、公開授業の実施。全ての教員が ICT を利用して授業を行うことができるようにする。
事業目標	本校は総合学科として多彩な選択科目を有すること、オープンネットに接続できるタブレット等を一定台数整備していることやコンピューター教室を3室持っていることなどの強みがある。教員が ICT を活用した授業力の向上をはかることで、生徒が主体的に ICT を活用し、協働し、高めあう等、生徒自らが選択した授業での学びを高めることをめざす。
整備した 設備・物品	プロジェクトとマグネットスクリーンを普通教室17教室に設置。 ※ プロジェクタ：カシオ XJ-F211WN・書けるマグネットスクリーン：内田洋行 SM-70K・無線 LAN アダプター：カシオ YW-41) プロジェクトを共生推進教室に設置。 ※ EPSON EB-1785W
取組みの 主担・実施者	アクティブラーニング推進委員会 (各教科から1人。委員長は教頭。主体的・対話的で深い学びを研究・推進する委員会)
本年度の 取組内容	1人1台端末として導入された Chromebook を活用して、オンライン PT による校内研修を行い、活用方法の共有を図った。また、実際に Chromebook と教室備え付けのプロジェクトを活用して、提示画面を手元で確認をしながら、実施できる授業を、準備のできた教科から順次実施した。Chromebook の画面を全体共有し、プロジェクトで提示しながら、試行的な授業を行うことも行った。 ①授業における小テスト受験状況確認や生徒端末とプロジェクト提示がリンクした授業を実施。 ②体育祭、文化祭におけるリアルタイム配信及び、各種講演の教室への一斉配信（始業式等も含む）。 ③授業における作業工程をプロジェクトで提示しながらの課題解決授業の実施。 ④その他、各授業におけるプロジェクトを活用した授業実践。

成果の検証方法 と評価指標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒向け学校教育自己診断（設問 2, 3 平均）における「授業理解度」を 80%以上（最低でも 70%以上） 2 2 年次の外部機関の客観的学力診断テストにおける国数英学力レベルゾーン B 3 から B 2 への向上 ※ ICT を利用して授業を行う教員の割合 60%以上
自己評価	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒向け学校教育自己診断において 設問 2（授業はわかりやすい）の割合は 2 回の平均で 73.8%となった。 設問 3（習熟度別による少人数授業は、自分の理解度に合っていて、内容がよくわかるようになった）の 2 回の平均は 71.3%となった。 設問 2 では、10.6%上昇（令和 2 年度 63.2%）、設問 3 では、8.6%上昇（令和 3 年度 62.7%）した。また、ともに、最低指標の 70%を上回ったが 80%までは到達しなかった。 (○) 2 授業アンケートにおける教員は教材（ICT 等）を工夫をしている割合は、2 回の平均で 76.3%となった。昨年比では、12%の減少となったが、活用することが当たり前になっていることも原因である。授業におけるプロジェクタの活用は、実技を除き 100%の教員が活用している。..... (◎) 学力診断テストにおける国数英学力レベルゾーンについては、1 年生が新学習指導要領になったこともあり、一概に比較することは困難である。日々の積み重ねはもちろん、学びの形態が変わっているため、成績の向上を推し量ることができないが、B 3 ゾーンからの向上は難しかった。..... (△)
事業のまとめ	<p>令和 3 年度に発足したオンライン PT による取組及び、1 人 1 台端末を活用した研究授業を含めた取組へと変更して行った。事業発足以来「Assistive（主体性）・Active（対話的）・Adaptive（個別化）」を目途に、プロジェクタ及び 1 人 1 台端末の活用から、新しい授業観を見出す途上にある。主体的な活動も含めた更なる授業充実が図れている。事業の終わる次年度以降も、引き続きオンライン PT を中心に、先進的授業充実に向けて取組んでいく。</p> <p>次年度以降、プロジェクタの更なる配置を図りつつ、無線における Chromebook の運用により、更に効果的な端末及びプロジェクタの活用を通じた授業充実に努めていく。</p>